

## 「リズム～登山好きの小犬の生涯～」を目にして

家内の長年の友人のご主人が、小型の愛犬（ヨークシャーテリア）と家族の交流を記した本「リズム～登山好きの小犬の生涯～」を自費出版し謹呈いただいた。

愛犬は生後73日目に娘さんの希望からペットショップで購入され、その喜ぶ「ぴよんぴよんとはね回る」仕草から「リズム」と名付けられたとか。

著者であるご主人は、外国の山の登頂を目指す登山隊長を務めたこともある登山家でもある。

登山隊は単に未登頂の登頂を目指すだけでなく、その地域の文化や動植物等の学術調査を行い詳細な観察、メモを心懸けるだけに、愛犬との交流をメモ魔か？と感服する程の記録も掲載されていた。

例えば、登頂？した東北の181ヶ所の山の名前、山の標高、登頂日付等が記された「リズムの登山年表」。

「リズム」はこんなにたくさんの山々を走破したからか、同行した山仲間？から推挙されて「日本山岳会宮城支部会員」として認められたとか。

また、「リズム」が解っていると思われる約200個の人の言葉の一覧も掲載されていた。

更に、感服したのは10才になって体調を崩し逝くまでの20日間のその日、その日の様子が、ご家族の介護の様子も含め実に詳細に記されている。

自分は子どもの頃、金魚、赤メダカは云うに及ばず、犬、うさぎ、メジロ、十姉妹、ウグイスを飼ったことがある。

また、子どもの希望でパンダうさぎ、金魚、赤メダカ、十姉妹、インコも飼ったこともあるが、観察眼がなかったのか、さほどペットとの懐かしい交流の思い出話は出てこない。

もっと観察力、メモ力があったなら、懐かしい思い出を記憶出来ていたのだろうなあ…と、本書を読んでつくづく反省している。

本書、愛犬との10年間の交流が実に軽快な文体で書かれている。

もし、本書を手にしてみたい方がいましたら、ご連絡いただければ本書の購入の仲介をしますよ（一冊700円、送料別）。